

第15回
協議会

H16.3.3

合併実現に向け 一步前進!

合併協定調印式が開催されました



合併協定調印の証として、1市5町の市長、町長が固い握手を交わしました。

〔写真左から、池山泰正郡山町長、四元泰盛松元町長、赤崎義則鹿児島市長、日高保喜入町長、竹ノ下光桜島町長、西園登吉田町長〕

平成16年3月3日(水)、かごしま市民福祉プラザ5階大会議室において、第15回鹿児島地区合併協議会が開催され、第14回合併協議会に提案し持ち帰りとなっていた合併協定書(案)「2・3面に全文を紹介」は原案のとおり確認されました。引き続き、同会場において合併協定調印式が挙行政され、平成15年1月24日、1市5町での鹿児島地区合併協議会発足から約1年2カ月にわたる実質的な協議はすべて終了し、合併に向けて歴史的な第一歩を踏み出しました。

合併協定調印式

調印式では、来賓紹介の後、合併協議会の川原幹事長から、合併の取組みの経過報告及び合併協定書の説明がありました。その後、須賀鹿児島県知事をはじめ、協議会委員、1市5町の協議会議員など約150人が見守る中、鹿児島市長、吉田町長、桜島町長、喜入町長、松元町長及び郡山町長が合併協定書に署名しました。

立会人署名は、協議会委員を代表して1市5町の共通の学識経験者である猪飼鹿児島国際大学助教授、宮廻鹿児島大学教授並びに藤元鹿児島総務事務所長の3人が行いました。署名終了後、1市5町の首長による協定締結の証としての握手の後、1市5町の首長が知事を囲み固い握手を交わしました。

そして、協議会を代表して赤崎義則会長のあいさつに続き、来賓の須賀龍郎知事より祝辞をいただき、合併協定調印式を終了しました。

会長あいさつ



鹿児島地区合併協議会
会長 赤崎 義則

鹿児島地区合併協議会の合併協定調印式を挙行政するにあたり、一言「あいさつ」を申し上げます。本日は、須賀鹿児島県知事を始め、1市5町の協議会議員の皆様、そして関係の皆様には、ご多用の中ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、協議会委員の皆様には1年余にわたり、熱心なご協力を賜り、大変ありがとうございました。お陰様で、先ほど、めでたく歴史的調印を終わることができました。皆様方とともに、心から喜びを分かち合いたいと存じます。さて、現在、我が国においては、進展する地方分権の受け皿としての行政体制の強化と将来にわたって厳しさが予測される地方財政への対応策として、市町村合併が進められています。

このことを受け、私も1市5町においては、平成13年5月に鹿児島地区市町村合併調査研究会を設けて、合併特例法に基づく合併についての調査、研究を始めました。ところで、1市5町は、これまでお互いに協調し合って発展してきましたが、すでに日常生活圏は鹿児島市を中心に一体化しています。

このような地域の一体化と合併調査研究会の調査、研究の結果の上に立って、昨年1月、鹿児島地区合併協議会を設置し、今日まで合併についての具体的な協議を重ねてまいりました。

合併調査研究会を設置してから約3年、合併協議会を設置してから1年余り、関係の皆様方の真摯で前向きな取り組みにより、協議は極めて順調に進められ、本日の調印式を迎えることができました。ここに改めて、関係の皆様からのご尽力とご協力を心から敬意と感謝を申し上げます。また、この間、各面から懇切なご指導を賜った須賀知事をはじめ、県当局に対して衷心から感謝申し上げます。

さて、合併という大義があるとはいえ、歴史と伝統に輝き、先人たちの叡智と努力によって築かれてきた自治体がなくなることは、理論的にはわかっているが、感情的にはしびれるものがあると思えますが、5町の皆様は将来にわたる地域の発展のため、合併の道を決断されました。私も、このことに深く思いをいたし、当協議会で決定された新市まちづくり計画を着実に実行することはもとより、すべての地域の一体的浮揚、発展に努力していかねばならないと思っております。

合併後の新生鹿児島市においては、1市5町の総意を糾合し、渾然一体となつて合併に寄せられた期待と要請を実現していかねばならないと思っております。本日の調印を新たな出発点として、1市5町が更に協力し、11月1日にはすべての人々に祝福される合併が実現するよう、努力してまいりたいと存じます。終わりに、皆様方のご尽力とご協力により、ここいめでたく調印ができましたことに改めて衷心から厚く御礼申し上げます。今後一層のご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康をお祈りして、あいさついたします。